

## 平成 21 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名 (注: 学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること)

デイケアの活動に対する利用者の経験に関する研究  
ーフロー理論に基づく感情状態の検討ー

学位の種類: 修士 ( 作業療法 学)

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 作業療法科学系

学修番号 08896609

氏 名: 安永 雅美

(指導教員名: 小林法一 先生 )

注: 1,000 字程度 (欧文の場合 300 ワード程度) で、本様式 1 枚 (A 4 版) に収めること

デイケアでの活動が利用者にとどのような感情をもたらしているか、即ちデイケアでの活動に対する利用者の経験について明らかにするために、デイケア利用者 45 名を対象に、デイケアでの活動内容と活動に対して感じる「技術」と「挑戦感」を調べフロー理論に基づいて 8 つの感情状態に分類した。その結果、1)最も多く行われている集団体操は「不安」や「心配」などネガティブな感情状態になりやすい。しかし 2)同じ身体活動を行う個別訓練では、個人に合わせて難易度や環境が調整されているため、集団体操に比較してポジティブな感情状態になりやすい。3)デイケアの活動によって経験される感情状態は「退屈」が最も多く、次いで「不安」や「心配」などネガティブな感情が上位を占めていた。4)女性は男性より「フロー」が多くの割合を占め、より高齢のものは「リラックス」が多くの割合を占め、介護度が重度の群は軽度の群より「退屈」が占める割合が多かった。このように性別や年齢、介護度により、経験しやすい感情状態が異なることがわかった。5) QOL と「不安」の占める割合との間に負の相関が認められた。

これらのことから、デイケアでの活動がもたらす感情状態は個人によって異なること、ネガティブな感情状態を減らすことはデイケアサービスの質の向上につながる可能性があること、そのために活動を提供する際には個人にあわせて難易度の調整などの配慮が必要なのではないかということが示唆された。